

## ベートーヴェン：交響曲第3番変ホ長調 Op.55「英雄」

「傑作の森」はベートーヴェン研究でも著名なノーベル賞作家、ロマン・ロランによる言葉だが、「遺書」の後に開けたこのすばらしい創作期の入り口にあるのが、《交響曲第3番「英雄」》である。この経緯についてはシチエドリンの項を参照していただきたい。この交響曲が、フランス革命の英雄、ナポレオンに献上されるはずだったが、彼の皇帝即位に失望して取り消しとなり、献上の辞が激しい筆圧で抹消された話は、あまりにも有名である。結局、1806年に出版された初版の楽譜には「シンフォニカ・エロイカ（英雄交響曲）」のタイトルの後に「ひとりの偉大な人間の思い出を祝して」という言葉が添えられた。曲は、献呈者でもあるパトロンのプロコヴィツ侯爵の邸宅で私的に初演された後、1805年4月7日、ウィーンで公開初演された。

第1楽章：アレグロ・コン・プリオ、変ホ長調

主和音がはぎれよく2回、トゥッティ（総奏）で鳴り響いて曲を開始する。

第2楽章：マルチャ・フネブレ（葬送行進曲）、アダージョ・アッサイ、ハ短調

ナポレオンの失脚を予感させるような厳粛な葬送の音楽。

第3楽章：スケルツォ アレグロ・ヴィヴァーチェ、変ホ長調

古典的な交響曲の優雅なメヌエットに代わる、躍動感あふれるスケルツォ楽章。

第4楽章：フィナーレ アレグロ・モルト、変ホ長調

変奏の手法で書かれている。主題は、過去のバレエ音楽《プロメテウスの創造物》から借用された。

遠山菜穂美

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。

楽器編成：フルート 2、オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 2、ホルン 3、トランペット 2、ティンパニ、弦五部

※スコア上の表記